

視察報告書

- 1 視察日時 令和3年7月14日 9時00分～12時15分
- 2 視察先 ①周匝 美作岡山道路吉井I.C.以北ルート・城山公園
②是里 ぶどう新規就農者ほ場
③是里 是里農村公園周辺(ワイン記念館・リゾートハウス等)
古民家再生活用実例
④殿谷 熊山英国庭園・地域おこし協力隊活動状況
⑤沢原 サル捕獲罠
- 3 視察目的 産業建設常任委員会所管事業の現状把握
- 4 視察参加者 ・金谷文則 ・治徳義明 ・実盛祥五 ・佐藤武文
・佐々木雄司 ・鼻岡美保
- 5 視察概要 ①においては、岡山県職員の説明を城山公園より展望の中受ける。(施行ルート及び完成予定年度等)
②においては、吉井ぶどう生産出荷組合田村会長以下2名の説明を受け、ほ場の状況を確認し就農に対しての経験談を聞く。
③においては、13年前より古民家を再生し移住した森井さんより活動状況の説明を受ける。
④においては、英国庭園内パーゴラ等を確認の上、地域おこし協力隊上村さんの活動状況の報告を聞く。
⑤においては、以前より猿の被害にあってきた地区での生息域・行動域の調査結果の説明とサル捕獲用の開放型の罠の設置状況の確認視察を行う。
- 6 所感 総じて、所管事業の現状を直視できたことで、事業を実感することが出来た。特に、美作岡山道路の工事においては、完成予定が10年以上先になる見通しで有る事。また、この道路を付けることによる具体的なメリットや効果が進行状況に合わせて分析されたものを現場が把握できていない。
赤磐市として、道路が完成してその結果から次の手を打つのではなく、刻々と変わる進行状況に合わせて対策を取ることが求められるのではないかと感じられた。
是里でのぶどう新規就農者の実状を見て、昔のような苦勞をしてほ場を整備していくような体制は、現状としては無理のように思われる。経済の流れに即応するためには、市独自の支援体制を整

え、我が身一つで就農できるようにしなければ平均的には市場競争に勝てる見込みがない。早急に赤磐市型支援制度の創設などを考えなければ、新規就農者の確保は難しく、未活用耕作地の荒廃が日に日に加速されるように感じる。

古民家再生活活用事例として、森井さんの活躍は赤磐市にとって重要な財産と感じる。活動しやすいような支援体制をさらに構築することが、赤磐市の宣伝にもなり、地域の活性化につながるものと考えられた。

英国庭園の地域おこし協力隊の上村さんの活動については、様々なイベントや企画に精力的に取り組んでいる様子がうかがえ、更なる活性化に尽力願えればありがたい。それには、地元との協力が必須であると共に、赤磐市の英国庭園としてのグローバル・開かれた観光施設としての位置づけでの施策が必須で有るかとも思える。地域に無い、飲食・宿泊施設などが併設されれば、盛り上がりも違うかもしれない。

サルの捕獲罠については、捕獲頭数の報告からそれなりの成果が有ったと思われる。引き続き、捕獲の推進を願うが、管理について地域に対し支援が出来る事を考える必要が有るように思えた。

特に、鳥獣害対策については地域性や害獣の種類による対応の差異が難しさとなっている。行政として、対応策の情報提供がまず求められる。更なる情報収集と提供、そして受益者の負担の軽減に努める施策が必要とされる。

視察で感じた事をそれぞれの委員が、当該委員会の活動に活かすよう更なる研鑽努力が求められる。

以上